

# BPA 一般社団法人 バイオマス発電事業者協会

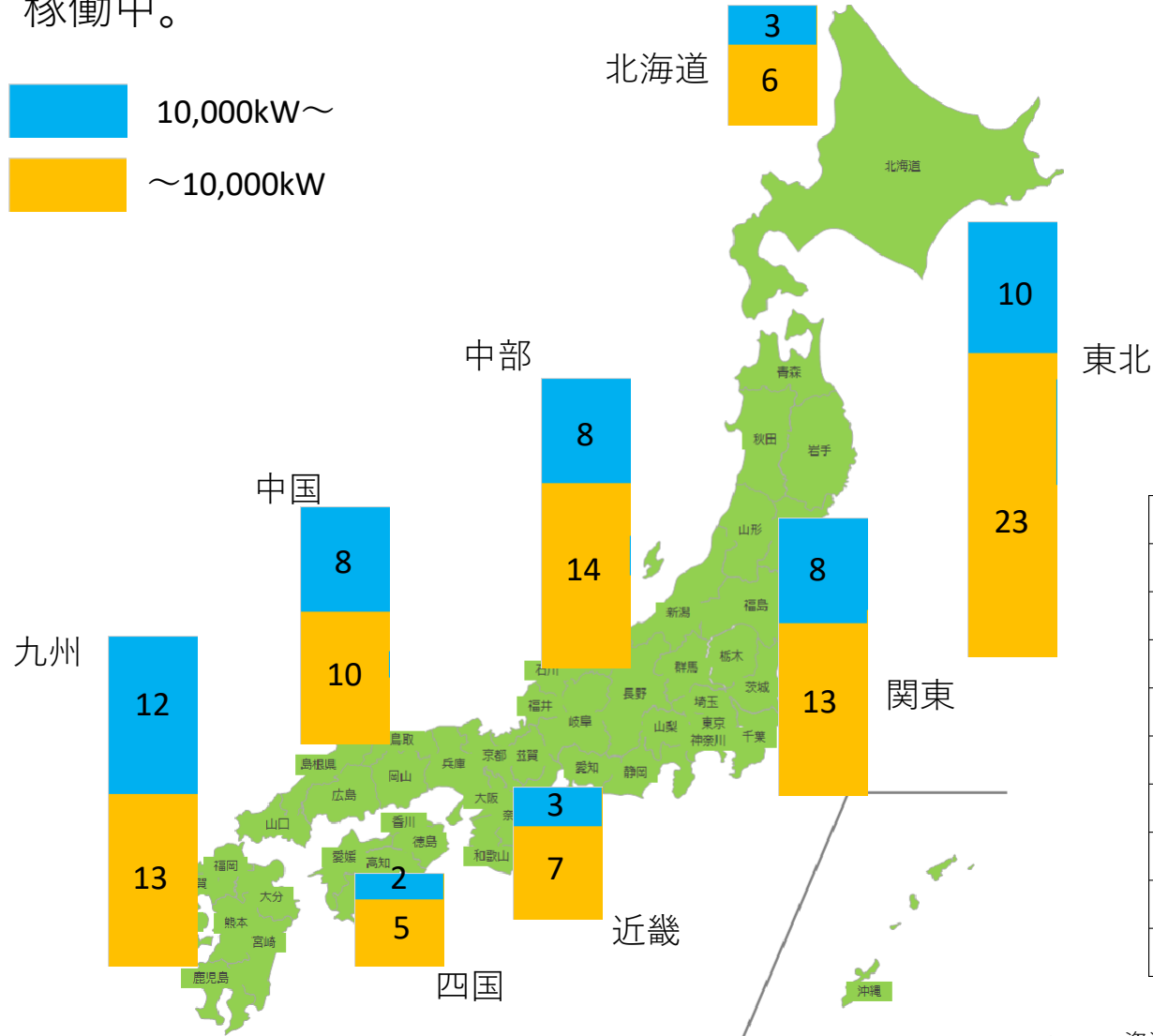


令和2年8月27日

第2回 林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会

[www.bpa.or.jp](http://www.bpa.or.jp)

現在、日本全国各地で約**150**か所の木質バイオマスを燃料とする発電所が稼働中。



2020年4月現在

	～10,000kW	10,000kW～	計
北海道	6	3	9
東北	23	10	33
関東	13	8	21
中部	14	8	22
近畿	7	3	10
中国	10	8	18
四国	5	2	7
九州	13	12	25
<b>合計</b>	<b>91</b>	<b>54</b>	<b>145</b>



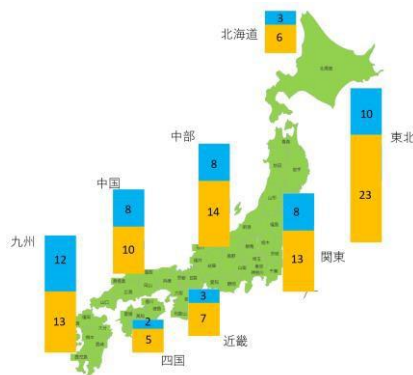
小型発電所  
5,000kW クラス



大型発電所  
50,000kW クラス

必要な燃料：  
約60,000トン/年

必要な燃料：  
約300,000トン/年



日本中に大きな燃料需要が存在！



## バイオマス発電と林業との共存共栄、国産材への比率増加へ

- 大型施設案件は現状では輸入材が主な燃料となっているが、今後の国産材の供給体制整備と供給量増加に期待し、徐々に国産材の比率を上げ、地域経済・林業への貢献度を高めていきたいと考えている。
- ※ 国産材の林業促進においても大型の燃料需要が存在することは、増産計画を策定し易くなると考えられる。
- 国産材の安定した供給増による国内バイオマス燃料市場の成長・成熟に期待。

国産材の安定した供給増加のための林業の増強策を期待

すでに伐期を越えた樹木が多く存在し、今後増加し続けている環境下において、森林環境保全や地域産業促進の為に、森林資源の循環利用を前提としてバイオマス燃料用途を主目的とした皆伐と植林により、バイオマス発電の燃料生産としての林業を増強する政策支援を期待したい。  
また熱利用のためのインフラを備えた街づくりへの補助等も必要であると考えられ、そのような施策によって燃料用木材の供給がより活発化、地域活用電源化の環境下においてバイオマス発電施設も自立化も促進される。

- ① 林業の大規模集約化/ハイテク化
- ② 皆伐/早生樹への植え替え
- ③ 路網等のインフラ整備
- ④ 熱利用インフラ整備および熱電併給へのインセンティブ

地域に貢献する再生可能エネルギー電源として、バイオマス発電事業者は  
国産材燃料の積極的な利用とともに

- 高品質燃料に関する情報提供
- 燃料加工技術に関する協力
- 中間土場の整備等、流通への協力



等、国内森林資源の循環活用のための協力を行いたいと考えている。



© dsk

